

茨城大学学報

第308号

平成25年4月～平成25年5月



事務局棟前の芝桜（水戸キャンパス）

INDEX

- ◆ 平成25年度入学式
- ◆ 人文学部が地域連携活動を紹介するパンフレット「地域とともに」を発行
- ◆ 環境人材育成で4大学が単位互換協定を締結
- ◆ 「茨城大学サイエンステクノロジーフェスタ 2013」を開催
- ◆ 茨城大学名誉教授称号授与式・懇談会を開催
- ◆ 「環太平洋の環境文明史」（代表：青山和夫教授）の研究成果が、米国サイエンス誌に掲載
- ◆ 建物の壁面緑化を実施
- ◆ 平成25年度新任教職員研修会及び新採用職員（事務系）研修を実施
- ◆ 人文学部地域活性化プロジェクトチームが「常陽ビジネスアワード 2012」の奨励賞を受賞

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

◆ 平成25年度入学式

平成25年度茨城大学入学式が平成25年4月5日（金）、茨城県武道館（学部・専攻科）および茨城大学講堂（大学院）において、大勢の保護者および学内関係者らの参列の中、挙行されました。

式は、国歌吹奏、各学部等総代の誓書提出にはじまり、学長式辞、来賓祝辞、役員・学部長等の紹介と続き、入学生代表宣誓（工学部・布施樹さん、理工学研究科・神子裕明さん）より宣誓がありました。最後に参列者全員による校歌斉唱で閉会となりました。

入学生代表宣誓では、工学部の布施樹さんが「歴史と伝統ある茨城大学の学生としての誇りと自覚を持ち、志高く自らの力で新しい時代を切り開き、創造していく意欲と決意で日々研鑽に励むことを誓います。」と決意を述べました。学部・大学院・専攻科を併せて2,273人の新生が、それぞれの夢や目標に向かって新たな一歩を踏み出しました。



◆ 平成25年度入学式・学長式辞

茨城大学長 池田幸雄

桜の花が満開の今日この頃でございます。茨城大学の新生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本日、平成25年度の入学式を挙行し、皆さんを茨城大学にお迎えできました事、私達教職員一同、大変喜んでおります。また、ご両親を始め、ご家族ご親類の皆様にも、謹んでお祝いを申し上げます。

新入生諸君は、厳しい受験競争を乗り越えて、本日より晴れて茨城大学の学生になりました。あなた方は、今日から一人前の若者として自立した生活を始める事になります。これからの4年間の学生時代は、あなた方の人生のうちで、最も自由で、最も活動的で、最も楽しい時代です。大いに青春を謳歌して欲しいと思います。

本学は、あなた方を自立した大人として認めますが、必然的に3つの義務が発生する事を自覚して頂きたいと思います。その第1は、他人に迷惑を掛けない事。第2は、ご両親等に心配を掛けない事。第3は、社会ルールを厳守する事です。以上の3つの義務を守りつつ、学園生活を自由に楽しんで頂きたいと思います。

さて、最近の学生気質は非常に多様ですが、1つだけ、共通点があります。それは、学生自身の興味が何処にあるのか不明確であるため、学生は勉学意欲が希薄で、「分からない事は放って置く」という結果になっている事です。しかしながら、これらはそれ程深刻な問題ではないと私は考えています。その訳について「アルベルト・アインシュタイン」を例にとってお話したいと思います。



アインシュタインは、20世紀で世界一の天才科学者として大変有名です。彼は20世紀の初頭に「相対性理論」等を発表し、「物理学の世界」を一変させた大物理学者ですが、教育にも強い関心を持っておりました。彼は、学者や学生のみならず、一般人や労働者達にも、分かり易い講演をしています。彼の研究した「相対性理論」は大変難しい内容ですが、彼は一般人にも大変分かり易く説明しています。「熱いストーブの上に1分間手を置いていると、まるで1時間程にも感じられますが、可愛い女の子と一緒に1時間座っていると、まるで1分間程にしか感じられない」というのが相対性であると説明しています。この説明を聞けば、物理学をよく知らない人でも、「相対性理論」が何となく分かったような気になります。

また、アインシュタインは学生時分から自分に興味のない勉強は一切しませんでした。したがって、当時の教授達の評判は大変悪かったようです。彼が大学教授になっても、学生には興味のある授業のみを勧めています。彼は「学校の教師の能力は高いけれども、教師には授業を面白くする力がない」と批判しています。また、「生徒が知らない事を質問するのは悪い教師で、本来、生徒が応え得る質問をすべきである」とか、「学生の学力が向上

しないのは、教師が悪い」とも言っています。更に、彼は、「学校で習った事を忘れてしまった後に、なお自分の中に残ったもの」が教育であるとも述べています。アインシュタインは知識のみを詰め込む教育を厳しく戒めており、その代わりに、学生には豊かな想像力を期待していました。彼の基本的な考えは、「創造力は知識よりも大切で、知識には限界があるけれども、想像力は世界を包み込む」というものでした。

アインシュタインの時代は 20 世紀前半の世界であり、現在の 21 世紀の世界とは大きく異なっています。したがって、彼の教育観が、現在の社会に 100% 適合しているとは限りません。彼は、学生が特定の分野に強い興味を既に持っている事を前提として「多様な広い知識」は重要でないと考えていましたが、21 世紀の激動する現在の社会では、科学技術が急速に発展しており、学生や社会人には「広い知識と弾力的な見識」が強く求められています。この点を加味すれば、彼の教育観は現在でも「教育の本質」を突いていると思います。

アインシュタインは「教師に厳しく、学生に寛大」でした。我々、現在の教育者にとって、彼の言葉は、大変、耳の痛い事ばかりでございますが、我々は謙虚になって、彼の言葉を正面から受け止める事が必要であると思います。一方、学生にとっても課題があります。それは、多くの学生が「自分自身の明確な興味」を未だ持っていないため、あなた方は何を勉強したら良いのか分からない状態だという事です。

アインシュタインは、子供の頃から興味の分野が明確で、自分の進むべき道が明らかでしたが、対象的に現在の多くの学生諸君は、自分の興味が何処にあるのか不明確です。しかし、あなた方はまだ遅くはありません。本学で自分の興味を発見すれば充分です。あなた方は入学してから多くの授業を受けますが、



「何が面白いのか」、「自分は何に興味を持っているのか」について、是非、自問自答してみてください。自分の興味が発見できれば、アインシュタインと同様、あなた方の勉学意欲は大きく膨らみ、あなた方の学力が着実に向上して、想像力も豊かになり、驚くほどの実力を発揮する事になります。あなた方は「成長した新しい自分自身」を発見するでしょう。人生において、大学生の時代が最も実り多き、充実した時代です。皆さんは本学で勉学に勤しみ、課外活動にも力を注ぎ、友人と人生を語り、先生方の見識を伺い、地域社会にも前向きに関わるなど、あなた方の世界を十分に広げて欲しいと思います。また、あなた方

が実家に戻った時には、ご両親等とも良く相談するなど、異なる世代間の話し合いができる「本当の大人」になって欲しいと思います。と同時に、諸君は若者らしく、愛と青春に喜び、希望に胸を膨らませて、茨城大学での学園生活を心ゆくまで楽しんで頂きたいと思
います。

最後に、新入生の皆様のご入学を歓迎し、これからの皆様の健康と今後の成長を心
から祈って式辞と致します。今日は本当におめでとうございます。

以上

◆ 人文学部が地域連携活動を紹介する パンフレット「地域とともに」を発行

人文学部の地域連携委員会は、平成16年12月に発足し、今年度で10年目を迎えます。平成16年から平成19年までの地域連携活動を紹介した『地域とともに』が平成19年11月に発行されました。

人文学部は、これまでも地域社会と協働して様々な地域課題の改善に取り組んでまいりましたが、「地域に支えられ、地域に頼りにされる大学」として、さらに地域連携活動をより一層推進していくつもりであります。

本冊子は、前回発行した『地域とともに』につづく2冊目のもので、平成20年から平成23年度（一部平成25年度）の人文学部の地域連携活動を紹介したものです。

地域社会の多様なステークホルダーの方々にご覧いただき、当学部との地域連携活動を行う際の参考にいただければ幸いです。



『地域とともに 茨城大学人文学部地域連携のあゆみ 2008～2011年度』

◆ 環境人材育成で4大学が単位互換協定を締結

平成25年4月19日（金）学士会館において、茨城大学・信州大学・横浜国立大学・広島大学が、環境人材育成のためのグリーンマネジメントプログラムに関して、単位互換協定を締結しました。

アジアの急速な経済成長や人口増加などに伴い、様々な環境問題が顕在化しているなかで、環境省は平成20年3月に「持続可能なアジアに向けた大学における環境人材育成ビジョン」を取りまとめ、平成23年3月に設立された「環境人材育成コンソーシアム(EcoLeaD)」を支援してきました。

本プログラムは、環境配慮型経営の専門家育成を目指した大学院修士課程の副専攻プログラムとして、EcoLeaDが事務局を務め、メンバーである4大学が協働して企業価値を創出する環境経営が推進できる「環境人材」を育成するためにスタートしたものです。

今年度は、1科目「グリーンマネジメント概論」について4大学を遠隔講義システムで結び、日本語及び英語にて実施し、次年度以降、徐々に科目数を増やしていく予定です。

調印式では、環境省及び文部科学省からも来賓の出席があり、祝辞が述べられるとともに、4大学の学長から、環境人材育成の重要性や、今後、国内の他大学の参加やアジア太平洋諸国との連携も視野に入れていきたいなどの抱負が述べられました。



左から、山沢信州大学長、鈴木横浜国立大学長、浅原広島大学長、池田茨城大学長

◆ 「茨城大学サイエンステクノロジーフェスタ 2013」を開催

理学部は、平成 25 年 4 月 20 日(土)に「茨城大学サイエンステクノロジーフェスタ 2013」を開催しました。この企画は小・中・高校生や一般市民の皆さんに科学技術に親しんでいただくために毎年開催している公開イベントで、平成 25 年度科学技術週間の参加事業でもあります。

「光と酸素と生物」に関する講演に続き、物理、化学、生物、地学に関する実験体験講座 7 件に加えて、茨城県立水戸第二高等学校スーパーサイエンスハイスクール (SSH) クラスからの体験講座「あなただけの葉脈しおりに作ろう」も実施されました。参加者数は昨年とほぼ同様で、県内の高校などを中心に合計 86 名(小学生 2 名、高校生 75 名、大学生 1 名、一般 8 名)でした。

参加者アンケートでは、「理学部にとても興味を持てた(高校生)」、「天文観測の体験講座を加えて欲しい(高校生)」、「とてもわかりやすく楽しかった(一般、高校生)」などの感想が寄せられ、ほとんどの皆様から「また参加したい」との回答をいただきました。

日程や時間などを工夫して、もっと多くの小・中学生、一般の皆さんに参加いただける工夫をし、今後も、わかりやすく楽しい科学体験講座の充実に務めてまいります。

参加下さった皆様、どうもありがとうございました。



手形をニンヒドリン反応で検出



慎重に試薬を入れて・・・(物質の発光)



コーラが大噴火？



液体窒素を注ぎます！

◆ 茨城大学名誉教授称号授与式・懇談会を開催

茨城大学名誉教授称号授与式が平成25年4月25日（木）に事務局第2会議室で行われ、各理事、副学長、各学部長が出席のもと、池田幸雄学長から新に名誉教授となられた方々に称号記が手渡されました。

引き続き懇談会が行われ、近況報告を交えながら終始和やか雰囲気の中で歓談が行われました。



称号記を授与される堀名誉教授

平成25年4月1日付けで茨城大学名誉教授となられた方は、次のとおりです。

- （元 人文学部）青木研二、鎌田彰仁、齋藤典生、Joyce Isobel Cunningham、田中重博、深谷信夫
- （元 教育学部）尾形敬史、岡本研二、松村多美恵、柳田伸顯
- （元 理学部）大西和榮、川田勇三、堀 良通、横沢正芳
- （元 工学部）榎本正人、小林正典、小檜山 守、小柳武和、小山田弥平、塩幡宏規
- （元 大学院理工学研究科）友田 陽
- （元 農学部）軽部重太郎、佐合隆一、塩 光輝

以上 24名（敬称略、元所属別・50音順）



称号授与式後の記念写真

◆ 「環太平洋の環境文明史」（代表：青山和夫教授）
の研究成果が、米国サイエンス誌に掲載

人文学部の青山和夫教授が領域代表を務める科研費新学術領域研究「環太平洋の環境文明史」の研究成果が、学術誌として世界的にも権威のある米国サイエンス誌に掲載されました。

*** 研究成果の概要：マヤ文明最古の公共祭祀建築 ***

グアテマラにあるセイバル遺跡の大規模で層位的な発掘調査と放射性炭素（14C）年代による詳細な編年の結果、マヤ文明の起源を考える上で重要な定型化された公共祭祀建築は、従来の学説よりも200年ほど早く、前1000年頃に建設されたことが明らかになった。また本研究の成果から、マヤ文明が近隣のオルメカ文明（メキシコ湾岸低地南部）の一方的な影響により興ったとするマヤ文明の起源に関する従来の有力説とは異なる、より複雑な社会変化の過程が示唆される。マヤの人々は、地域間ネットワークに参加して遠隔地から重要な物資を搬入するだけでなく、観念体系や美術・建築様式などの知識を交換して、マヤ文明を築き上げていったと考えられる。



*** セイバル遺跡 ***

セイバル遺跡は、グアテマラを代表する国宝級の大都市遺跡であり、国立遺跡公園に指定されている。このマヤ都市は、ジャングルの真ただ中を流れるパシオン川を望む、比高100mの丘陵上に立地した。

セイバル遺跡での調査の様子

◆ 建物の壁面緑化を実施

本学では二酸化炭素を含む環境負荷の削減を目指し、エネルギーのグリーン化計画に取り組んでいます。今年度も同計画の取組みの一環として、建物の壁面緑化に向けた作業を開始しました。

平成 25 年 5 月 16 日（木）、晴天に恵まれた夏を思わせるような強い日差しのなか、水戸キャンパスの事務職員が集合し、フラワーポット 90 鉢にゴーヤの苗植えを行いました。今後各建物に枠、ネットを取り付け、外壁面グリーンウォールを完成させる予定です。

夏の省エネルギー対策とたわわに実ったゴーヤの収穫を大いに期待しています。



苗植えを行う 前田克彦 理事・事務局長



教育学部 A 棟の壁に設置されたフラワーポット

◆ 平成25年度新任教職員研修会及び新採用職員（事務系）研修を実施

新任教職員研修は、新任教職員に対し、国立大学法人運営の現状・課題等について理解を深めることを目的として例年実施しており、今年度は平成25年5月20日（月）、及び21日（火）に実施しました。

学長講話では、池田幸雄学長がホワイトボードへ自ら「大学教育は曲がり角」と記した上で、「現在大学は20世紀型教育から21世紀型教育への移り変わりが求められており、大学改革を行う必要がある。茨城大学で行う改革は、社会からの要請に応える形で実現したい」とのお話がありました。その他、各部門担当理事、事務局各部課長から、国立大学法人の諸制度、本学の概要及び当面の諸課題等について講話がありました。



受講生を見つめ大学改革の必要性について講話する 池田 幸雄 学長

新採用職員（事務系）研修は、新採用職員に対し、社会人として必要なコミュニケーションや効率的な仕事の進め方等について理解を深め、本学職員として基本対応スキルの習得を図ることを目的とし、平成25年5月21日（火）から22日（水）の期間に実施しました。

事務局長講話では、前田克彦事務局長より、新採用職員に対し大学職員としての心構えについてお話がありました。メモを取りながら事務局長講話を受講する職員の姿に、(株)CEIの伊藤純子 研修講師からお褒めの言葉があり、メモを取ることの重要性についてお話がありました。その後、各職員はグループ討議やロールプレイングにも積極的に参加し、熱心に受講しました。また、本研修では例年先輩講話の時間を設けており、新人職員に対し、これまでの経験に基づく前向きで誠実なメッセージが送られました。

【先輩講話の一部から】 理学部学務第一係 堀江利行（H20.4.1採用）

『採用当初は、所属係の名前（当時：総務部総務課法規係）に惑わされていたのか、大学職員であるという、実感がなかなか湧きませんでした。けれど、入学式や卒業式など大学の全体行事に関わることで「学生のために働いている」という実感が湧いてきました。みなさんも常に「学生のために」という思いを持って、業務に臨んでほしいと感じています。』

◆ 人文学部地域活性化プロジェクトチームが 「常陽ビジネスアワード2012」の奨励賞を受賞

人文学部の地域活性化プロジェクトチーム「さとみ・あい」が、(株)常陽銀行が主催する「常陽ビジネスアワード2012」の奨励賞を受賞しました。常陽ビジネスアワードは、常陽銀行が地域活性化に貢献する活動の事業化を支援するために2012年度に設けたもので、第1回にも関わらず261件もの提案がありました。企業主体の応募者の中で、学生団体の受賞は唯一「さとみ・あい」だけでした。

「さとみ・あい」は、本学の就業力育成支援事業の一環として構築が進んでいる「根力育成プログラム」を構成する正規授業の一つとして、人文学部で開講されている「プロジェクト実習」の受講者を中心に結成され、常陸太田市里美地区での地域活性化に熱心に取り組んできました。

今回は、里美地区に伝わる伝統野菜の「里川かぼちゃ」の高付加価値化について生産者の切実な要望を受けたことをきっかけに、学生ならではの視点で12品目のレシピを開発しました。地域住民との協働で、実際の商品として生産・販売・広報の企画を行っていこうとする活動が評価されての受賞となりました。常陽銀行によれば、学生が過疎地域と真摯に向き合い、住民との協働による「地に足のついた活動であること」が、受賞の決め手になったとのことでした。

平成25年6月13日(木)に常陽藝文センターで開催された授賞式では、最優秀賞、優秀賞などの受賞16団体とともに、「さとみ・あい」の代表として、人文学部人文コミュニケーション学科4年の番場有彩さんが出席、常陽銀行の寺門一義頭取から、表彰状と副賞を受け取りました。授賞式では、「さとみ・あい」チームの地域活性化にかける強い意欲が高く評価され、今後も学生からの提案が増えていくことへの期待が表明されました。

「さとみ・あい」では、平成25年11月に予定している里川かぼちゃの商品化を目指して、生産者と協働で開発を進める一方、里美の魅力を知ってもらうための「女子旅」の企画や、泉町会館で行われるファーマーズマーケットでの販売・イベント企画も視野に入れながら、これからも積極的に里美の地域活性化に貢献していくこととしています。



表彰式での記念撮影の様子(左:人文学部 番場有彩さん、右:常陽銀行 寺門一義頭取)